

特別支援学校の修学旅行に必要な配慮や支援（１） － 岐阜県の特別支援学校を対象とした調査から －

松 本 和 久 安 田 和 夫 櫻 井 康 博 山 内 達 仁
岐阜聖徳学園大学教育学部 埼玉大学教育学部 合同会社太陽ホスピタリティー

Making the necessary arrangements and getting the necessary support for excursions at a school for special needs students (1): Survey results for special support schools in Gifu prefecture

Kazuhisa MATSUMOTO, Kazuo YASUDA, Yasuhiro SAKURAI, Tatsuhito YAMAUCHI

キーワード：特別支援学校 岐阜県 修学旅行 配慮や支援

I. はじめに

多くの子供たちが学校生活最大の思い出の一つに挙げるのが修学旅行である。特に特別支援学校に通う障害のある子供たちにとって、「非日常」である旅行は大変魅力的な行事であろう。通常の学級の修学旅行については、毎年、公益財団法人日本修学旅行協会が『教育旅行年報』として、中学校・高等学校の修学旅行に関する調査結果をまとめている。また、公益財団法人全国修学旅行研究協会が関東・東海・近畿地区の中学校を対象に実施状況調査を行っている。一方、特別支援学校の修学旅行については、中岡（2011）¹⁾による「特別支援学校の修学旅行に関する全国調査－高等部調査結果－」で、全国の特別支援学校高等部 576 校の修学旅行の行き先や内容が報告されている。また 2009 年に学研の『実践障害児教育』が「もっと楽しく修学旅行」という特集で特別支援学校の実践を紹介し、山内（2009）²⁾などが寄稿している。しかし、特別支援学校の修学旅行における具体的な支援の内容や方法を検証した研究はほとんど見られない。

筆者らはこれまでに、知的障害・発達障害のある人が旅行する際に必要な支援について研究を進めてきた。障害のある子供の保護者を対象とした調査の結果、知的障害・発達障害のある人やその保護者は旅行に出かけたいと思っではいるものの、声を出したりパニックになったりして周囲に迷惑をかけてしまうことや、トイレの心配などの不安が先に立ち、気軽に出かけられずにいることが明らかになった。また、旅行参加者への調査を通して「事前に参加者の特性を尋ね、必要な配慮の提供」「事前の下見と写真入り行程表の準備」「気持ちが不安定になった時に落ち着きを取り戻すためのカームダウンエリアの設置」「必要に応じて、ボランティアによる個別の対応」といった支援が有効であることが明らかになった（松本・山内、2016³⁾）。

2011 年度まで特別支援学校教諭だった筆者（松本）は、高等部修学旅行の主担当者として修学旅行の計画立案及び引率に二度携わったことがある。前年度からの引継事項を参考にしながら苦労して取り組んだことは記憶に新しい。修学旅行の添乗員は旅行の専門家であっても障害のある子供たちへの支援の専門家ではないことが多く、子供たちに対するきめ細かな配慮、そして何より子供たちの安全には、教師自身が心を砕かなければならない。そのため、日々多忙な特別支援学校の教師にとって修学旅行の計画立案及び引率は、心身に大きな負担となると考えられる。そこで、障害のある子供たちにとって修学旅行がより楽しく充実したものとなるように、また添乗員をはじめ旅行業に携わる方々の障害のある子供たちの旅行への理解が深まり、適切な支援を提供していただけるように、これまでの研究成果を特別支援学校の修学旅行にも生かしたいと考えた。

本研究では、岐阜県の特別支援学校において修学旅行を担当する小学部・中学部・高等部の教師を対象とした実態調査を実施した。その結果をもとに、特別支援学校の修学旅行にはどんな配慮や支援が必要なのかを考えたい。

Ⅱ. 方法

岐阜県の特別支援学校 21 校を対象として質問紙調査を実施した。2017 年 2 月、筆者（安田）が岐阜県特別支援学校校長会に出向き、校長先生方に直接本調査の趣旨を説明し、協力を依頼した。児童生徒個人が特定される性質のものでないことの理解と調査協力の了解を得て、調査用紙を配布し郵送にて回収した。

調査内容は日本修学旅行協会（2016）⁴⁾を参考にし、2016 年度に実施した修学旅行の概要、活動内容、配慮事項について尋ねた。修学旅行の概要は教頭又は部主事に、活動内容と配慮事項については修学旅行主担当の教師に回答を依頼した。

Ⅲ. 修学旅行の概要

1. 実施状況

特別支援学校 21 校全てから回答が得られた（回収率 100%）。2016 年度に修学旅行を実施した学校は、小学部 18 校、中学部 19 校、高等部 20 校で、これらを分析対象とした。なお、高等部単独設置校が 1 校、修学旅行の隔年実施（小・中学部）、中学部のみ実施が各 1 校あった。修学旅行を実施した学校（各学部）の障害種別は、表 1 の通りである。なお、知的障害・肢体不自由・病弱を対象とした総合特別支援学校であっても、参加した児童生徒の障害種別によって「知的障害・肢体不自由」や単一の障害種とした。

また実施学年は、小学部は 5・6 年生の隔年実施 1 校を除いて 6 年生、中学部は同様に 2・3 年生の隔年実施 1 校を除いて 3 年生、高等部は 2・3 年生 1 校、2 年生 5 校、3 年生 14 校であった。

表 1 修学旅行を実施した学部の障害種別

(校)									
	視覚障害	聴覚障害	知的障害	肢体不自由	病弱	知・肢・病	知・肢	肢・病	合計
小学部	1	1	5	1	1	9	0	0	18
中学部	1	1	6	1	1	7	0	2	19
高等部	1	1	7	1	1	6	2	1	20

2. 実施時期・旅行費用

各学部の実施時期は表 2 の通りである。小・中学部は 10 月、高等部は 5 月に実施する学校が最も多かった。日程は、小学部は 18 校全てが 1 泊 2 日、中学部は 19 校全てが 2 泊 3 日、高等部は 2 泊 3 日が 19 校、3 泊 4 日が 1 校であった。また小学部 15 校、中学部 18 校、高等部 20 校と、ほとんどの学校が最終日を金曜あるいは祝日前、すなわち修学旅行の翌日が休日となる日程を設定していた。一方で「混雑した日程を避けるために、木・金でなく水・木に設定した」という学校もあった。

児童生徒一人当たりの旅行費用は、平均で小学部 29,799 円、中学部 65,904 円、高等部 92,005 円であった。

表 2 修学旅行の実施時期

(校)						
	4 月	5 月	6 月	9 月	10 月	11 月
小学部	0	1	1	1	12	3
中学部	0	1	1	4	12	1
高等部	2	12	1	1	4	0

3. 旅行先

各学部の旅行先は表 3 の通りである。「児童生徒に応じた行き先」「小学部・中学部・高等部と、学校

全体としての行き先の系統性」「準ずる教育課程の児童生徒と重複障害の児童生徒とが、共に楽しめること」などが選定理由として挙げられていた。

具体的には、小学部ではユニバーサル・スタジオ・ジャパン（６校）、志摩スペイン村（２校）、浜名湖パルパル（２校）、ナガシマスパーランド（２校）、名古屋港水族館（２校）など、多くの学校で児童が楽しめるテーマパークを訪問していた。一方、京都を訪れた３校は、「学習内容に基づいて」「小学校に準ずる教育課程の児童なので」といった選定理由が挙げられていた。中学部では、東京ディズニーリゾート（１６校）、東京スカイツリー（１２校）など生徒が楽しめる場所に加え、NHKやフジテレビなどのテレビ局（１０校）、国会議事堂（４校）のように社会科の学習と関連付けた場所だったり、キッザニア東京（２校）やカンドゥー（１校）で職業体験を行ったりしていた。高等部では、現地で文化体験やマリン体験といった体験活動（１５校）や平和学習（１１校）を行う学校が多かった。

表３ 修学旅行の旅行先

(校)

	北海道	首都圏	東海	関西	関西・中国	九州	沖縄
小学部	0	0	9	9	0	0	0
中学部	0	16	0	3	0	0	0
高等部	1	2	0	1	1	2	13

４．交通手段

各学部が利用した交通手段は表４の通りである。観光バスには「リフト付きバス」、タクシーには「福祉タクシー」「介護タクシー」も含まれている。通常の学級の修学旅行では行き先によって交通手段が決まると思われるが、特別支援学校の場合は、長時間の移動が困難な児童生徒や乗車できる乗り物が限られる児童生徒が在籍していることがあり、交通手段によって行き先を決める場合もあると考えられる。高等部では「航空機を体験する」ことを挙げた学校が９校あった。

表４ 利用した交通手段

(校)

	新幹線	J R 在来線	私鉄・地下鉄	観光バス	タクシー	航空機	船舶
小学部	8	8	3	9	6	0	4
中学部	17	6	7	10	6	0	2
高等部	6	3	6	17	5	16	2

Ⅳ．修学旅行における配慮や支援

まずは日程や活動を計画する上で配慮したことについて自由記述で回答を求めた。小学部 28 件、中学部 22 件、高等部 33 件の回答があり、活動内容を分類した結果、多かった回答は以下の３点であった。具体例と併せて挙げる。

- ・児童生徒の興味・関心や実態に応じた活動 27 件（小学部 12 件、中学部 8 件、高等部 7 件）
本人のもつ感覚を使って楽しめる活動、児童生徒と一緒に見学先の決定
- ・児童生徒の安全・安心 23 件（小学部 8 件、中学部 5 件、高等部 10 件）
トイレ・休憩場所・救護室の確保、経管栄養や二次調理への対応
- ・ゆとりある行程 16 件（小学部 5 件、中学部 7 件、高等部 4 件）
移動時間・食事時間・活動時間の配分、天候による日程変更への対応

続いて修学旅行の実施に当たって実際に行った配慮や支援の内容を、１．旅行会社を通して依頼したこと、２．学校側が直接依頼したこと、３．学校側で自主的に配慮したこと、４．当日現地で依頼した

ことに分けて、(1) 移動、(2) 宿泊、(3) 食事、(4) 買い物、(5) 見学・体験、(6) その他の 6 つの観点から自由記述で回答を求めた。表 5 から表 8 に各項目で挙げられた件数を示す (複数回答)。

表 5 旅行会社を通して依頼したこと

(件)

	移動	宿泊	食事	買い物	見学・体験	その他
小学部	13	32	24	0	9	8
中学部	30	38	32	6	14	7
高等部	29	28	38	12	18	7

表 6 学校側が直接依頼したこと

(件)

	移動	宿泊	食事	買い物	見学・体験	その他
小学部	4	13	14	2	7	1
中学部	1	3	8	0	6	1
高等部	1	2	2	0	2	0

表 7 学校側で自主的に配慮したこと

(件)

	移動	宿泊	食事	買い物	見学・体験	その他
小学部	9	3	10	8	6	10
中学部	9	12	11	9	14	4
高等部	13	11	10	8	10	10

表 8 当日、現地で依頼したこと

(件)

	移動	宿泊	食事	買い物	見学・体験	その他
小学部	3	1	3	0	3	0
中学部	6	1	7	1	5	1
高等部	8	2	9	4	9	4

以下、各項目における回答を分類した結果、主な回答を挙げる。

1. 旅行会社を通して依頼したこと

(1) 移動

- ・車いす席や多目的室のある車両の利用 20 件 (小学部 5 件、中学部 11 件、高等部 4 件)
- ・リフト付きバスや福祉タクシーの利用 14 件 (小 1、中 8、高 5)
- ・休憩時間や頻度の配慮 10 件 (小 1、中 3、高 6)
- ・航空機利用に関すること 5 件 (高 5)

(2) 宿泊

- ・車いす対応客室の利用 15 件 (小 3、中 7、高 5)
- ・不要物の撤去など安全対策 11 件 (小 2、中 5、高 4)
- ・トイレと浴室が分かれている部屋の利用 9 件 (小 2、中 7、高 2)
- ・浴場の貸切 8 件 (小 5、高 3)
- ・防水シートなどの夜尿対策 5 件 (中 5)

- （３）食事
 - ・アレルギーへの対応 20 件（小 3、中 6、高 11）
 - ・二次調理への対応 17 件（小 5、中 5、高 7）
 - ・個室の利用 12 件（小 2、中 5、高 5）
- （４）買い物
 - ・ゆっくり買い物できる時間や場所の確保 9 件（中 4、高 5）
 - ・買い損ねた場合を想定して買い直せる場所の確保 3 件（中 1、高 2）
- （５）見学・体験
 - ・移動手段や休憩場所、トイレなどの確認 17 件（小 3、中 7、高 7）
 - ・ゲストサポートや減免などの申請 10 件（小 3、中 4、高 3）
 - ・体験内容の吟味 5 件（高 5）
 - ・見学場所の確保 2 件（小 1、中 1）
- （６）その他
 - ・特別支援学校に精通した添乗員やガイドの依頼 4 件（中 1、高 3）

２．学校側が直接依頼したこと

- （１）移動
 - ・リフト付きバスの依頼 4 件（小 3、高 1）
 - ・JR 在来線の車いす利用 1 件（小 1）
 - ・車いすで乗降可能な場所の依頼 1 件（中 1）
- （２）宿泊
 - ・トイレと浴室が分かれている部屋の利用 10 件（小 1、中 7、高 2）
 - ・不要物の撤去など安全対策 4 件（小 4）
 - ・車いす対応客室の利用 3 件（小 3）
 - ・浴場の貸切 3 件（小 1、中 2）
 - ・防水シートなどの夜尿対策 2 件（小 2）
- （３）食事
 - ・二次調理への対応 9 件（小 5、中 3、高 1）
 - ・個室の利用 5 件（小 2、中 3）
 - ・アレルギーへの対応 4 件（小 2、中 1、高 1）
 - ・持参した食器の洗浄 1 件（小 1）
- （４）買い物
 - ・専用レジの設置 1 件（小）
 - ・商品リストの事前発送 1 件（小）
- （５）見学・体験
 - ・移動手段や休憩場所、救護室の確保 7 件（小 6、中 1）
 - ・ゲストアシスタントカードの予約 3 件（中 3）
 - ・アトラクション利用の可否の確認 1 件（小）
 - ・触察地図などの依頼 1 件（中）
 - ・国会議事堂での手話通訳の依頼 1 件（中）
- （６）その他
 - ・テーマパークでの救護室の依頼 1 件（小）
 - ・多目的トイレの確認 1 件（中）

３．学校側で自主的に配慮したこと

この項目は各学校において児童生徒に合わせた対応がなされており、内容が多岐にわたっていた。回答を分類するよりも具体的に示した方が分かりやすいので、回答例を挙げる。

- （１）移動
 - ・全員で一緒に移動できるようにペースを合わせる。
 - ・歩行が不安定な生徒は、長距離の移動には車いすを利用した。

- ・車いすが移動する際に周りの人とぶつからないように、職員が先導した。
- ・徒歩での移動が難しくなった場合を想定して、学校から車いすを持参した。
- ・シートベルトなどの安全対策を徹底した。
- ・バス内で、車いすの児童を前方の座席にした。
- ・バス内の後部座席に、介助スペースを設置した。
- ・バスでの排泄の失敗に備えて、座席にビニールシートを敷いた。
- ・座位が不安定な生徒に対して、クッションなどを準備した。
- ・肢体不自由の児童がバスの中でおむつ交換をする際は、知的障害の児童は全員バスを降りてトイレに行った。
- ・予定していた休憩場所（サービスエリア）を変更した。
- ・移動距離が長い時は、おやつを用意した。
- ・ラッシュ時の JR 線を利用するので、生徒一人一人に教師がついた。
- ・座席配置を工夫した。（例：情報保障ができるように／生徒同士の相性を考慮して）
- ・航空機への抵抗感のある生徒は、出発ギリギリのタイミングで乗るようにした。

（2）宿泊

- ・緊急対応の部屋を 1 室用意した。
- ・初めにどこに何があるかを生徒たちに触察させて、安全に動けるようにした。
- ・就寝後は部屋の鍵を教師が預かった。
- ・転落防止のため、ベッドを移動させた。
- ・部屋割りや部屋の配置を工夫した。

（3）食事

- ・はさみやミキサーなど、二次調理器具を持参した。
- ・メニューについてあらかじめ保護者に確認した。
- ・バイキングの際、教師が一緒に取りに行った。
- ・チューブに引っかからないように、経管栄養の生徒の位置を人の動きの少ないところにした。

（4）買い物

- ・あらかじめ購入計画を立てておいた。
- ・支払いの直前にお金を渡した。
- ・通路の広い店を選んだ。

（5）見学・体験

- ・乗れるアトラクションを保護者と確認して計画を立てた。
- ・生徒一人一人に教員がついた。
- ・車いすの生徒にとって見やすい位置を探した。
- ・体験活動の班編成を工夫した。

（6）その他

- ・同じ団体だと分かるように、お揃いのバンダナをかばんに付けた。
- ・知的障害の生徒の待つ時間が長くないように、肢体不自由の生徒が無理をしないように、両面を意識して計画した。
- ・緊急時の対応と役割分担を明確にしておいた。
- ・服薬が必要な生徒は、保護者に日にち別に小分けして用意してもらった。

4. 当日現地で依頼したこと

3. と同様にこの項目も回答を分類するよりも具体的に示した方が分かりやすいので、回答例を挙げる。

（1）移動

- ・チェックアウト後、ホテルの送迎バスを利用した。
- ・次のサービスエリアまでの距離や時間を考えて、ドライバーと相談して休憩場所を決めた。
- ・安全な乗降場所をドライバーと相談して決めた。
- ・空港のセキュリティチェックで、人工内耳装用の生徒には個別対応を依頼した。

（２）宿泊

- ・入浴貸切時間を延長してもらった。
- ・初めにどこに何があるかを生徒たちに触察させて、安全に動けるようにした。
- ・就寝後は部屋の鍵を教師が預かった。
- ・転落防止のため、ベッドを移動させた。
- ・部屋割りや部屋の配置を工夫した。

（３）食事

- ・テーブルの高さが合わず、別の席へ移動した。
- ・食事会場での食事が難しい生徒に対して、部屋食で対応してもらった。
- ・二次調理に必要なものを借りたり、洗浄してもらったりした。
- ・ミキサーのかけ具合について依頼した。（形状を確認して、追加してもらった。）

（４）買い物

- ・レジが混雑しないように、事前に予定時刻を連絡した。
- ・支払い時に、生徒のペースでやり取りしていただけるようお願いした。
- ・買い物の様子の店内での写真撮影の許可を得た。

（５）見学・体験

- ・規定の見学時間より短時間で回れるように依頼した。
- ・生徒の実態を伝え、無理なく楽しめるように配慮を依頼した。
- ・長時間並ぶことが困難なため、ゲストサポートパスを申請した。

（６）その他

- ・生徒の体調に合わせて休憩の時間を取った。
- ・体調不良の生徒は別行動をした。

V. 考察

特別支援学校の修学旅行で最も必要とされたのは、児童生徒の興味・関心や実態に応じた活動となるような配慮であった。仮に行き先は前年度と同じであっても、その年に参加する児童生徒に合わせて交通手段や行程、活動内容の再検討が必要となる。また、児童生徒の安全・安心に関する配慮は不可欠であり、そのため実際に行われた支援の内容は、修学旅行の主たる目的である見学や体験に関することよりも、移動、宿泊、食事に関することが多く挙げられた。

移動に関しては、車いす席や多目的室のある車両、すなわち東海道新幹線であれば 11 号車の利用が多く挙げられた。しかし「車いす席が少ないため、別の方法で目的地に向かわざるを得なかった」との回答もある。東海道新幹線の一編成 1,323 席のうち車いす席はわずか 2 席で、そのうち車いすが固定できるのは 1 席のみである。車いすの児童生徒が多く在籍していると、新幹線を利用した修学旅行は計画できないのが現状である。

また、高等部は航空機を利用する学校が多かったが、待ち時間が長い、シートベルトで固定される、大きな音が出ることなどにより航空機を苦手とする生徒もいる。筆者（松本）が体験した修学旅行では、座席でデイバックを抱くことで安心・安定が得られている生徒がいた。生徒の両脇には航空会社の指示通りに介助者（担任教師と添乗員）が座っていたが、キャビンアテンダントから「規則ですので、バックを前の席の下に置いてください。」と繰り返し指示を受けた。規則の遵守と生徒の安心の担保との狭間で苦心したことが思い出されるが、こうした生徒が安心して利用できる対策も考えたい。

宿泊に関しては、近年「バリアフリールーム」を設置している旅館やホテルも増えており、そうした車いす対応客室の利用が最も多く挙げられた。その部屋数にも限られていると思われるが、和室であること、ユニットバスでなくトイレと浴室が分かれていることなどが、宿泊先に求められるポイントと言える。ただ、例えば東京ディズニーリゾートの近くなど、場所によってはそうしたホテルが少ないため宿泊先の確保に苦労している学校もあった。また、花や額など児童生徒が触ってけがをしたり破損させたりする恐れのある物の撤去、ベッドガードの設置といった安全対策は特別支援学校の修学旅行ならではの言えよう。

食事に関しては、アレルギーへの対応は一般の小・中・高等学校の修学旅行でも行われるが、特別支援学校の修学旅行にはペースト食や刻み食といった二次調理への対応も不可欠である。この点について、旅行会社に依頼した学校もあったが、その詳細がレストランに正しく伝わらないこともあるようで、学校から直接依頼したケースも多かった。また、児童生徒が安心してゆっくり食事を楽しめるように個室を利用することも多かった。

このように、調査結果から特別支援学校の修学旅行ならではの配慮や支援について、具体的な内容の一端が明らかになった。これらの内容を、旅行会社をはじめ交通機関、宿泊先、レストランなど多くの人々に知ってもらえれば、修学旅行の企画・立案、そして当日の引率における特別支援学校の教師の負担も多少は軽減されるのではないだろうか。そして何より、児童生徒にとってより楽しく充実した修学旅行につながると思われる。今後は、特別支援学校にご協力いただき、本研究の結果を踏まえて修学旅行の計画段階への参画及びに実際の修学旅行への同行を通して、特別支援学校の修学旅行に必要な配慮や支援内容や方法を検証していく予定である。

ところで、スロープなどハード面のバリアフリーは「ある」「なし」で答えが出てしまう。「なし」の場合、それをソフト面でカバーする必要がある。しかし旅行業法では、添乗員の仕事は旅程管理業務と規定されており、添乗員は介助や介護をすることができない。今後、旅行会社は資格を所持する添乗員を積極的に養成して、介助や介護の業務を付加させていく方向であるかということも注視していきたい。

V. 終わりに

修学旅行ではないが、今回の調査の回答にあった訪問教育における宿泊学習の例を紹介する。家庭以外で宿泊したことがない小学部6年生児童が、自宅や主治医のいる病院の近くにある温泉旅館で部主事、担任、保護者と共に宿泊をした。体調に留意して主治医による健康観察を行い、旅館には、和室にベッドの準備や車いすでの入室について依頼して了解を得られ、児童は旅館や自然の風情を満喫し、小学校卒業前に家庭以外の場所で宿泊するという経験ができた。

これこそまさに、児童の「安全・安心」に配慮した「興味・関心や実態に応じた活動」であり、特別支援学校ならではの取組である。児童にとって貴重な経験ができるようにと尽力された先生方や保護者、主治医の先生、旅館の方に敬意を表したい。

付記

本研究は、科学研究費補助金（基盤研究C）「特別支援学校の修学旅行に必要な支援や配慮」（16K02088）の一部である。

謝辞

本研究の趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださった特別支援学校の先生方に深く感謝いたします。

注・文献

- 1) 中岡良司（2011）：特別支援学校の修学旅行に関する全国調査－高等部調査結果－，日本赤十字北海道看護大学情報科学.
- 2) 山内達仁（2009）添乗員に学ぶ旅支援ココがポイント，実践障害児教育，436，8.
- 3) 松本和久・山内達仁（2015）：知的障害・発達障害のある人が旅行する際に必要な支援，中部大学現代教育学部紀要，7，73-83.
- 4) 日本修学旅行協会（2016）：データブック教育旅行年報，2016.